



神奈鍼会報

第 169 号
令和 2 年 10 月 1 日発行
電子版

発行人 一般社団法人 神奈川県鍼灸マッサーヂ師会 会長 伊勢山 竹 雄 編集者 太田 修 二
〒231-0065 神奈川県横浜市中区宮川町 2-55 ルリ工横浜宮川町 304
TEL.045-242-7790 FAX.045-242-7791 E-mail: kanasin@apricot.ocn.ne.jp

第47回神奈鍼学術大会・報告

コロナ禍で初のWEB講習会

報告 学術部長 小川 眞悟

令和 2 年度、第47回神奈鍼学術大会は、最近の新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、横須賀市での開催を断念することに決定いたしました。

そこで、今回はWEB（ズーム）でのライブ配信にて講習会を開催しました。初めてのWEBでの講習会で緊張しドキドキしながら進行了ました。ズームを使用するにあたり、事前のメールアドレスを登録していただき、その後ホストから受講許可のメールが行くことで参加可能となります。今回は、理事の小野先生にホストになっていただき、全面的に手配していただき助かりました。この経験を踏まえて今後WEBでの講習会は、今まで以上に上手くできるように頑張りたいと思います。



講師の先生方の講演はとても有意義な内容で、臨床に役立つものでした。講師名と演題は下記に記載しております。

尚、会員発表の3名は全鍼師会の「東洋療法推進大会・徳島大会」が現地開催できないため、全鍼師会のHPにて「臨床・研究発表」の分科会コーナーで閲覧できるように準備しております。今回、受講できない方は是非閲覧願います。各分科会の準備ができ次第、皆さまへご連絡いたします。



第47回神奈鍼学術大会

■日時：令和2年9月6日（日） 13：30～16：45

■会場：今回はライブ配信ため、自宅やPCが使える場所で受講しました。

■内容：第1部 13：30～15：00

演題：「腰痛の診方と治療実技」

講師：慶応義塾大学病院神経 非常勤講師

鳥海 春樹 先生

第2部 15：00～16：00

「会員発表」

第1ブロック：榎本 恭子 先生（川崎師会）

演題：「日本災害医学会での論文発表について」

第1ブロック：藤田 将司 先生（川崎師会）

演題：「スポーツ生理学の最前線から

鍼灸マッサージの可能性について」

第3ブロック：小田 良実 先生

（鎌倉逗葉鍼灸マッサージ師会）

演題：「不育症・反復流産経験者が妊娠した一例

～鎌倉よしみ鍼灸院の取り組み～」

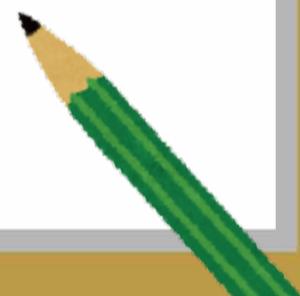
第3部 16：00～16：45

演題：「開業鍼灸マッサージ師の

ボランティア活動について」

講師：東海医療専門学校非常勤講師

朝日山 一男 先生





各種マラソン大会 ボッチャ大会 中止のお知らせ



セラピー委員長 朝日山 一男

2020年および2021年に開催されます神奈鉦参加予定のマラソン大会・ボッチャ大会につきましては、湘南国際マラソンが2021年2月28日に変更になった以外はすべて中止になりました。

尚、湘南国際マラソンの参加の形態につきましては、大会本部と折衝後連絡いたします。宜しく願いいたします。

1日も早く
コロナが治まって
イベントが
開催できます
ように



福利厚生部より

「令和2年7月豪雨」募金にご協力を頂き大変有難うございました。
合計**48,000**円に及ぶ皆様の大切なお気持ちを全鉦師会にお届けいたしました。
又、募金とは別に**100,000**円を最も被害の大きかった熊本県師会に災害支援金として直接送金いたしました。

ありがとうございました！

福利厚生部 梅田 春樹



今年は、もう
大きな台風
来てほしく
ないんだけどなあ



タバコ



16世紀ごろ日本に伝来したタバコは、肺がん、食道がん、喉頭がん等の癌だけでなく、COPD、心筋梗塞など数多くの疾患の原因となると言われ、市中では喫煙できる場所がほぼほぼ無くなっている。日本人男性の喫煙率は、1965年には82.3%、2018年には27.8%と三分の一まで減ってきている。

タバコが肺がんの原因だとしたら、喫煙率の減少に伴って肺がん罹患率も減少するはずなのに、逆に増加している。かつて、ネズミの口に無理やりタバコをくわえさせ、チェーンスモーク状態にし、人間に換算すると1日200本のタバコを毎日吸わせるという実験が行われた。その結果ネズミは肺がんになった。



これが「タバコを吸うと肺がんになる」という元になったという。しかしこれには続きがあって、この

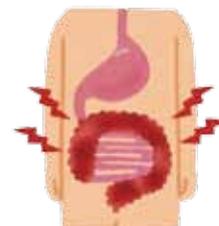


実験をした100匹のネズミのうち、肺がんになったのはほんの数匹だったという。

喫煙者がかかりにくいとされる病気が3

つあるが（私は3つしか知らない）、まず1つはパーキンソン病。実際当院の過去のパーキンソン病患者の喫煙者は、わずか1名だった。タバコに含まれるニコチンには

その薬理作用として、脳内の受容体と結合して神経伝達物質（ドーパミン、アドレナリン、 β -エンドルフィン）の放出が促進される。2つ目は認知症。老人ホーム内では喫煙者のほうが対人関係がよく、健康レベルも高いそうだ。メカニズムはよく分かっていない。そして3つ目は、潰瘍性



大腸炎。安倍前総理が辞任するきっかけとなった難病。

18世紀のヨーロッパでは、腸の病気の患者に肛門からタバコの煙を吹き込むという治療が行われていた。喫煙習慣のない潰瘍性大腸炎患者

にニコチンパッチを貼ると、出血性の下痢や腹痛などの症状が改善されるとアメリカの医学雑誌で報告された



そうだ。ニコチンには前述の作用と同様にアセチルコリンに代わる働きもし、免疫力



もアップする。こうしたことから、タバコにはプラスの面もあるようだ。ニコチンは自律神経に作用し、血管を縮めるが、それにより脳の機能も高まり頭がはっきりしたりする。百害あって一利無しともいわれるタバコだが、百害あっても三利は有るか…。でも決して喫煙を推奨している訳ではありません。悪しからず。



今まさに、新型コロナウイルスが猛威を振るい世界中に危機感が広がっているが、その対策に翻弄されている。100年前にスペ

イン風邪が大流行し、日本国内でも40万人以上の死者が出たといわれる。

歌人の与謝野晶子には11人の子供がいたが、小学校で一人の子供が感染したのをきっかけに、家族全員が感染した。こうしたことから、歌人らしく論評で当時の政府の対応を批判した。そしてこんな詩を残している。



冬はインフルエンザとなり、喘息となり、
気管支炎となり、肺炎となりて、
親と子と八人を責め苛む

マック スケタダ 記



参考文献	小長谷 正 明	「神経内科」
	三 石 巖	「医学常識はウソだらけ」
	奥 村 康	免疫力をグングンあげる「不良長寿生活」
	石 弘 之	「感染症の世界史」



